

RBPウォール工法

【NETIS】QS-160035-A

福岡 熊本 佐賀 長崎 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

特長

RBPウォール工法は、リバースボルトパネル版と鉄筋挿入工との組み合わせにより、切土法面及び法面地山の安定化による崩壊防止として、地山応力の小さな地山や、用地に余裕の無い場所、構造物に隣接した切土箇所等での道路拡幅や宅地造成、急傾斜対策工事、墜落対策工の受け台、斜面安定工等に適用します。地山の掘削は法面上端から、リバースボルトパネルで法面を固定しながら切り下げていく逆巻き工法です。

逆巻き施工可

■ リバースボルトパネル版で地山の安定化を図ることができるため、逆巻き施工が可能となり、工期短縮が可能です。

急勾配対応

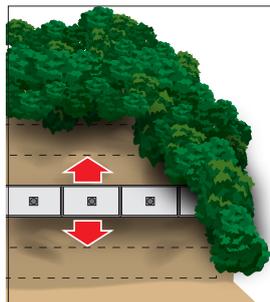
■ 急勾配(1:0.2~0.5)による長大法面の構築が可能です。

PC鋼棒で連結

■ リバースボルトパネル版をPC鋼棒で連結するため、切土法面及び地山の安定化を図り耐震性の向上が期待できます。

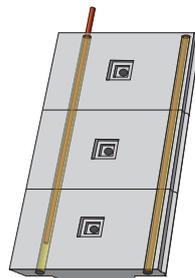
景観性

■ アンカー頭部がパネル内に格納されるため、景観性に優れています。



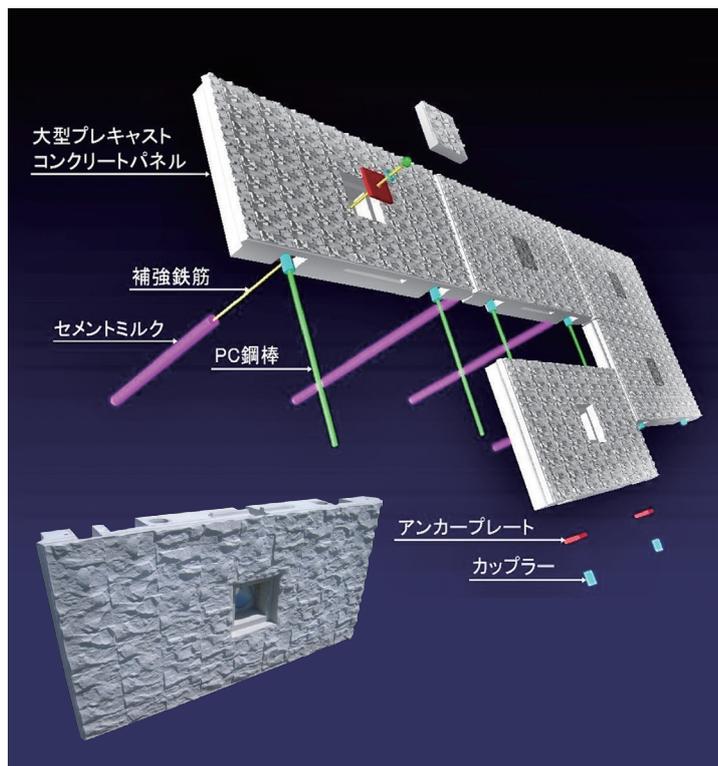
どの高さからでも施工可能

任意の固定点(線)より、上下いずれの方向へも延伸が可能です。また、計算により求められた切土高さまで掘削し、直ちに鉄筋挿入工を行うため、常に斜面の安定が確保できます。

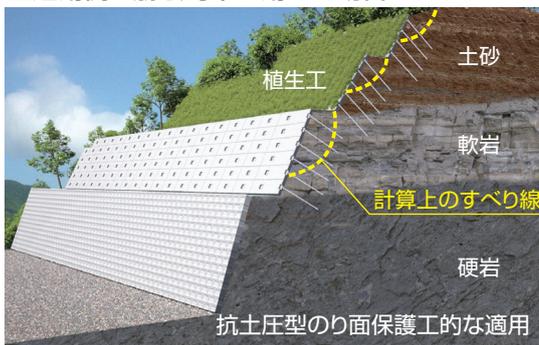


PC鋼材で上下を固定

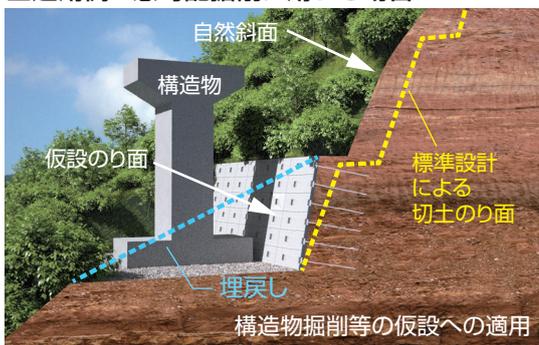
リバースボルトパネル版は、PC鋼材で確実に、上下のパネル版とが連結されているため、極めて安定した法面を形成し、地震などの地山挙動に対し大きな抵抗力を有しています。



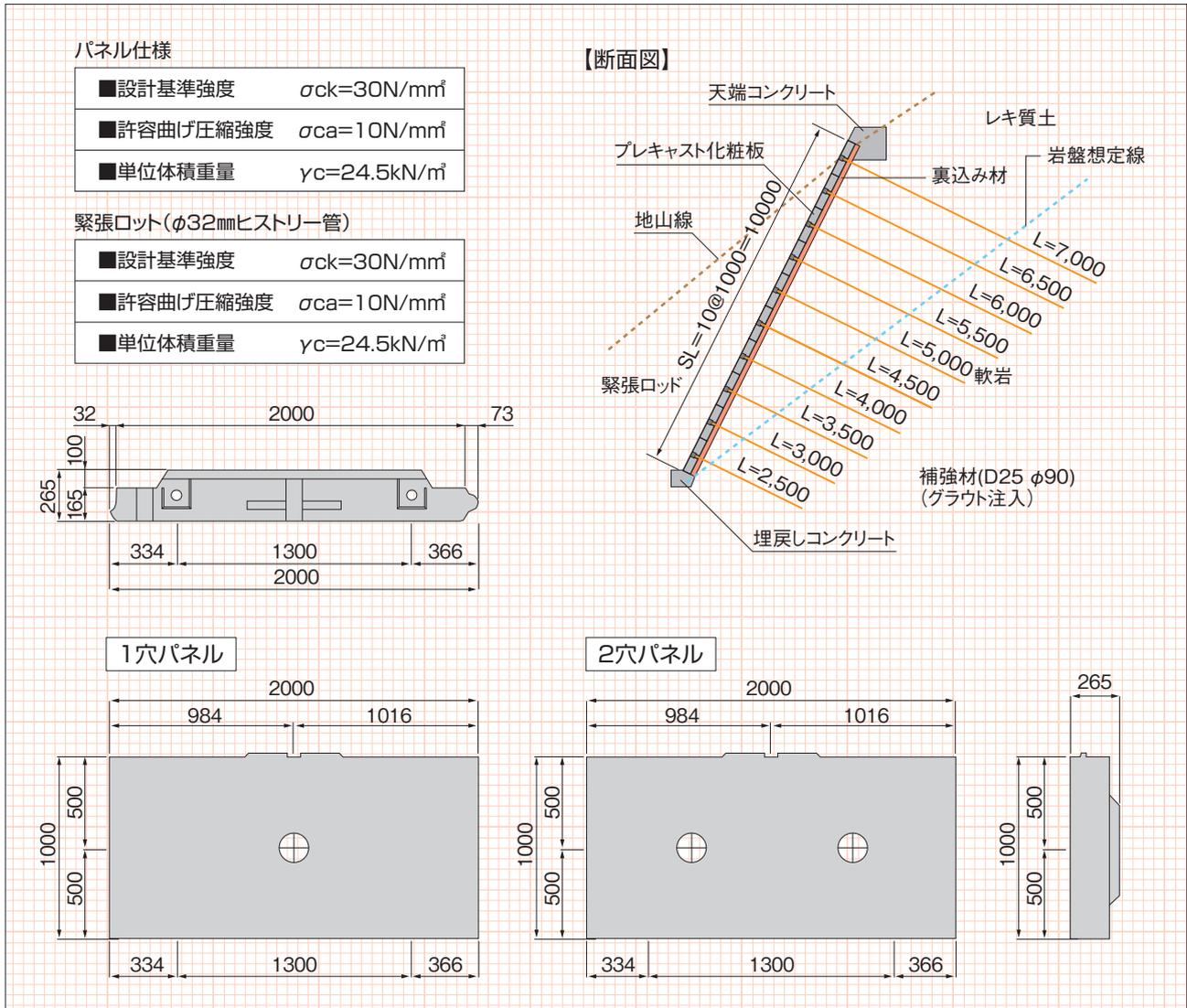
■ 適用例: 崩壊対策に用いる場合



■ 適用例: 急勾配掘削に用いる場合



■ 寸法図



■ 施工手順



1 基準段目(定規パネルの設置)

2 2段目パネル背面排水材設置

3 下段パネル設置

4 裏込み注入グラウト→補強材の緊張定着

5 削孔→鉄筋挿入

6 2～5作業を繰り返し完成